

平成17年度（第49回）
岩手県教育研究発表会発表資料

道 徳

低学年における道徳的価値の自覚を深める
道徳の時間の指導に関する研究
体験活動を組み入れた指導過程の工夫をとおして

平成18年1月12日
長期研修生
所属校 山形村立山形小学校
柏 木 路 子

目 次

研究目的	1
研究仮説	1
研究の内容と方法	1
1 研究の内容と方法	1
2 授業実践の対象	2
研究結果の分析と考察	2
1 低学年における道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する基本構想	2
(1) 低学年における道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する基本的な考え方	2
(2) 体験活動を道徳の時間の指導過程に組み入れることについての基本的な考え方	3
(3) 低学年における道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する基本構想図	4
2 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察	5
(1) 実態調査の目的と内容	5
(2) 調査結果の分析と考察	5
(3) 手だての試案作成上の配慮事項	6
3 体験活動を組み入れた指導過程の工夫についての手だての試案の作成	6
(1) 体験活動を組み入れた指導過程の工夫についての手だての試案	6
(2) 検証計画	7
4 授業実践	8
5 実践結果の分析と考察	11
(1) 体験活動タイプ とタイプ を組み入れた指導過程による道徳的価値の自覚の深まりの状況	11
(2) 体験活動タイプ を組み入れた指導過程による道徳的価値の自覚の深まりの状況	14
6 低学年における道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する研究のまとめ	16
(1) 成果	16
(2) 課題	17
研究のまとめと今後の課題	17
1 研究のまとめ	17
2 今後の課題	18

おわりに

【参考文献】

【補充資料】

研究目的

道徳の時間においては、計画的、発展的な指導によって学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を補充、深化、統合するとともに、道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育成することをねらいとしている。特に、児童が道徳的価値を自分のこととしてとらえられるよう、学習の指導過程や指導方法を工夫することが必要である。

しかし、低学年の児童は、生活体験を振り返り、道徳的価値の大切さを自分のこととして受け止めて理解することが難しく、道徳的価値の自覚を深めるまでに至っていないという実態がある。これは、ねらいとする価値と生活体験の中に内在する価値との結び付きを図りながら、道徳的価値の自覚を深めさせていく指導の工夫が十分でなかったことが原因であると思われる。

このことを改善するため、低学年においては、道徳的価値と生活体験の中に内在する価値とを結び付けて考えられるように、体験活動を道徳の時間の指導過程の中に効果的に組み入れる。そして、話し合いや自分を振り返る活動により道徳的価値の大切さを理解させ、道徳的価値の自覚を深めさせていく必要がある。

そこで、この研究は、体験活動を組み入れた指導過程の工夫をとおして、道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導について明らかにし、低学年における道徳の時間の指導の改善に役立てようとするものである。

研究仮説

小学校低学年の道徳の時間の指導において、ねらいとする道徳的価値に応じて、以下の体験活動を指導過程の中に組み入れ、そこで感じたことや考えたことを基に話し合いや自分を振り返る活動を行えば、道徳的価値の自覚を深めることができるであろう。

- ・体験活動 タイプ ……具体的なイメージをふくらませるための活動
- ・体験活動 タイプ ……登場人物の気持ちを実感してとらえるための活動

研究の内容と方法

1 研究の内容と方法

- (1) 低学年における道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する基本構想（文献法）
低学年における道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する基本的な考え方や意義を明らかにし、基本構想を立案する。
- (2) 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察（質問紙法）
基本構想に基づき、手だてにかかわる実態を調査し、その分析と考察から明らかになった点を整理し、手だての試案の作成に役立てる。
- (3) 体験活動を組み入れた指導過程の工夫についての手だての試案の作成
実態調査の分析と考察から明らかになった配慮事項に基づき、体験活動を組み入れた指導過程の工夫についての手だての試案を作成する。
- (4) 授業実践
手だての試案に基づき、体験活動を組み入れた指導過程の工夫についての授業実践を行う。
- (5) 実践結果の分析と考察
授業実践結果の分析と考察をすることにより、手だての試案の有効性について検討する。

- (6) 低学年における道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する研究のまとめ
授業実践結果の分析と考察を基に、低学年における道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関してまとめる。

2 授業実践の対象

山形村立山形小学校 第2学年（男子4名 女子10名 計14名）

研究結果の分析と考察

1 低学年における道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する基本構想

- (1) 低学年における道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する基本的な考え方

ア 道徳的価値についてのとらえ

小学校学習指導要領解説道徳編では、「道徳性とは、人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指してなされる道徳的行為を可能にする人格的特性であり、人格の基盤をなすものである。それはまた、人間らしいよさであり、道徳的諸価値が一人一人の内面において統合されたものといえる」と記されている。このことから、道徳的価値とは人間らしいよさであり、人間らしさを身に付けていくための基礎基本となる価値であると考えられる。これらの基本的な道徳的価値は、学習指導要領に道徳の指導内容として示されているものであり、児童が調和的な道徳性をはぐくむために必要不可欠なものである。

イ 道徳的価値の自覚を深めることの意義

小学校学習指導要領解説道徳編では、「道徳の時間は、児童一人一人が、一定の道徳的価値の含まれるねらいとのかかわりにおいて自己を見つめ、道徳的価値を発達段階に即して内面的に自覚し、主体的に道徳的実践力を身に付けていく時間である」と記されている。

道徳的価値の自覚とは、道徳的価値を自分にとって意味のある大切なものとして意識することである。それは、他の価値観を受け止めて考えたり、道徳的価値を自分の生活とのかかわりで振り返って見つめ直したりすることで、自己の価値意識が拡充、深化されていく。この道徳的価値の自覚を深める過程において、道徳的な心情、判断力、道徳的実践意欲と態度がはぐくまれ、道徳性が養われていく。道徳の時間において、道徳的価値を知識の理解にとどまらせることなく内面に根ざしたものとするため、道徳的価値の自覚を深めさせる必要があると考えられる。

ウ 道徳の時間の低学年における指導について

道徳の時間においては、小学校学習指導要領解説道徳編の学年の発達の特徴と道徳性の育成にかかわる留意点を考慮し、児童の認識能力や心情等の発達に合わせて道徳的価値の自覚が深められるようにする必要がある。

低学年の児童には、素直で温かい心をもっていること、感情移入をしやすいこと、感情が素直に表れること、物や生き物などに心で語りかけることができることなどのよさがある反面、言語能力が乏しいこと、論理的に考えることが難しいこと、自分を客観的に見ることが難しいこと、体験が少ないことなどの実態がある。児童が、道徳的価値の大切さを実感したり、具体的に考えたりすることができるようによさを生かし、不足となる部分を補った指導の工夫をすることが必要であると考えられる。

エ 低学年における道徳的価値の自覚が深まった姿のとらえ

小学校学習指導要領解説道徳編では、道徳的価値の自覚を深めることについて、道徳的価値を理解し、それを自分とのかかわりにとらえ、自分なりに発展させていくという三つの事柄を押さえて指導する必要があるとされている。

本研究では、低学年における道徳的価値の自覚が、【表1】のように深められていくと考え、研究を進めるものとする。そして、小学校低学年の道徳の時間における道徳的価値の自覚が深まった児童の姿を「道徳的価値の大切さを自分のこととして受け止め、よりよい生き方を目指そうとする思いをもつ児童」ととらえることにする。これは、道徳的価値を知識としてのみ理解するのではなく、自分にとって意味のある大切なものとして受け止めて理解することであり、価値実現への意欲が高められた姿であると考えられる。

(2) 体験活動を道徳の時間の指導過程に組み入れることについての基本的な考え方

ア 道徳教育における体験活動とは

小学校学習指導要領第1章総則には、「道徳教育を進めるに当たっては、(中略)ボランティア活動や自然体験活動などの豊かな体験を通して児童の内面に根ざした道徳性の育成が図られるように配慮しなければならない」ことが記されている。道徳教育における豊かな体験活動とは、日常生活や学校の

全教育活動で行われる様々な体験をとらえて、心が動かされる思いを味わうことを意味している。この心の動きと道徳の時間における指導とが響き合うようにしていくことが大切である。

イ 本研究における体験活動とは

本研究で組み入れる体験活動は、児童の生活体験との結び付きを図ったものであり、ねらいとする価値にかかわる場面やそのときの気持ちを思い起こさせるため、道徳の時間の一部に模擬体験や表現活動などを取り入れた活動である。【表2】は、体験活動を行うねらいとその効果について示したものである。

体験活動タイプは、具体的なイメージをふくらませて資料の内容を豊かにとらえるための活動である。この活動により、

【表1】低学年における道徳的価値の自覚の深まりの段階

段階	児童の姿
気付く	道徳的価値を感じている
とらえる	道徳的価値に対する様々な考え方を受け止めている
たかまる	道徳的価値の大切さを自分のこととして受け止め、よりよい生き方を目指そうとしている

【表2】低学年の道徳の時間に組み入れる体験活動

体験活動の分類	体験活動 タイプ	体験活動 タイプ
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 児童の体験の不足を補う 日常生活体験を思い起こさせる 資料と現実を近づける 興味・関心を高める 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉のみによるイメージの不足を補う 登場人物の立場に立ってその心情を味わったり、感じ取ったりする 登場人物の行為や心情についての共感的理解を得る 児童のこれまでの生活体験が反映される
効果	<ul style="list-style-type: none"> そのものへの感覚が具体的に味わえる 新しい発見や驚きを感じる 感情が素直に出る 感じ方が強まる 	<ul style="list-style-type: none"> 演じることの(考えることの)意欲がわく 言葉のみでは、足りない部分の想像が広がる 動いてみたり、声に出してみたりすることで、感情がわく 観念的な言葉の理解と、実際に感じたことが結び付く 感じたことが素直に表情や言葉に表れる 演じることで、新しい気付きが生まれる
具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> 実物に触れる 観察 	<ul style="list-style-type: none"> 役割演技 ペープサート 動作化

児童が五感を使ってその物・事について感じる事ができ、ねらいとする価値にかかわる生活場面を思い起こすことができると思う。また、体験活動タイプは、登場人物の気持ちを実感してとらえるための活動である。この活動により、登場人物の姿に自分を重ねることができ、自分の感情が素直に表出されるとともに、児童の生活体験が反映されると考える。

本研究では、低学年の道徳的価値の自覚を深めるための手だてとして、これらの体験活動をねらいとする道徳的価値に応じて道徳の時間の指導過程の中に組み入れることにする。

ウ 体験活動を低学年の道徳の時間の指導過程の中に組み入れることについての意義

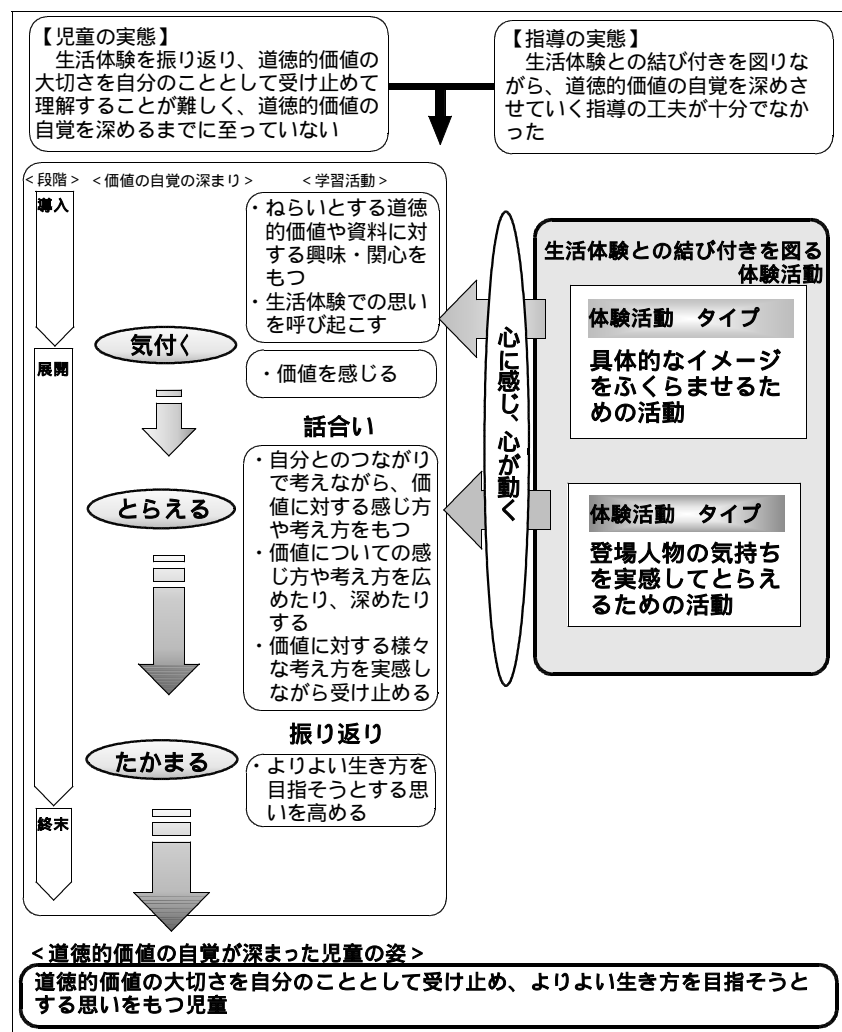
児童にとって、日常生活そのもの全てが体験である。しかし、低学年の児童にとってその体験のほとんどは意識されずに行われているため忘れ去られてしまっていることが多く、特に、そのときの気持ちについて思い起こすことは困難である。

そこで、体験活動を道徳の時間の指導過程の中に組み入れることにより、児童が、ねらいとする道徳的価値にかかわる生活場面やそのときの気持ちを想起しやすくする。また、資料の内容や登場人物の行為、心情等について具体的に考えさせ、道徳的価値の大切さをとらえさせることができると思う。

さらに、授業時間の中で行う体験活動により、心に感じ、心を動かしながら考えたことを基に話し合いや振り返り活動を行えば、道徳的価値の自覚を深めていくことができると考える。

(3) 低学年における道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する基本構想図

これまで述べてきたことを基に、道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する基本構想図を【図1】のように作成した。



【図1】低学年における道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する基本構想図

2 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察

(1) 実態調査の目的と内容

低学年における道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する基本構想に基づいて、次のような目的と内容で調査問題を作成し、7月中旬に調査を実施した。

ア 調査の目的

この調査の目的は、調査対象となる2年生児童の道徳の時間における体験活動にかかわる意識の実態から課題を把握し、体験活動を組み入れた指導過程の工夫についての手だての試案作成に必要な資料を得ることである。

イ 調査の内容

【表3】は、体験活動タイプとして組み入れる役割演技にかかわる意識についての実態調査内容を示したものである。調査紙は、【補充資料1】に示す。

ウ 調査の対象

山形村立山形小学校 第2学年 (男子4名 女子9名 計13名)

(2) 調査結果の分析と考察

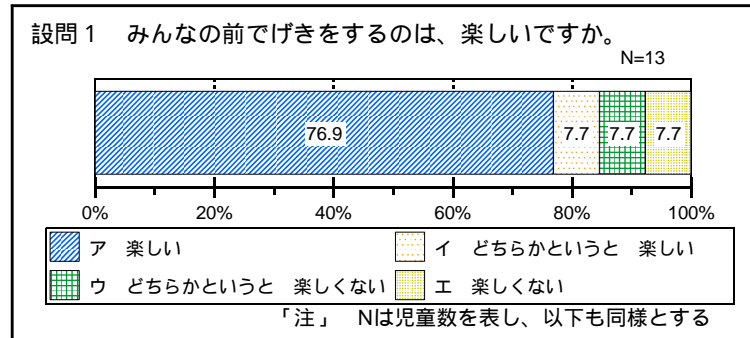
【図2】は、道徳の時間に役割演技をする場合の児童の役割演技への抵抗感について調査した結果である。また、【表4】は、その理由について調査した結果である。

【図2】に示したように、学級の友達の前で役割演技をすることが「ア 楽しい」と答えた児童は10人で全体の76.9%、「イ どちらかといえば楽しい」と答えた児童は1人で全体の7.7%、「ウ どちらかといえば楽しくない」と答えた児童は1人で全体の7.7%、「エ 楽しくない」と答えた児童は1人で全体の7.7%であった。

このことから、約8割の児童は役割演技への抵抗感はほとんどないことが分かる。そこで、児童の役割演技に対する意欲を生かして、多様な価値観を引き出すようにする。一方、約2割の児童は、「恥ずかしいから」「笑われると楽しくないから」という理由から役割演技への抵抗感をもっていることが分かる。そこで、役割演技への抵抗感を和らげる雰囲気作りと抵抗感をもつ児童の意見の取り上げ方に配慮しながら活動を行うことが必要であると考えられる。

【表3】実態調査の観点と設問内容

観 点	設問	設問内容
役割演技にかかわる意識の実態	1	みんなの前で役割演技をすることに抵抗感があるか
	2	役割演技にかかわる意識とその理由



【図2】役割演技にかかわる意識について

【表4】役割演技を行うことについての意識とその理由

意 識	理 由
楽しい	<ul style="list-style-type: none"> ・劇をするのが、好きだから ・道徳の劇は、変わっていて楽しいから ・「ふり」をつけて動くのが、おもしろいから ・みんなの前で言うのが楽しいから ・みんなが見てくれるから ・頑張ると楽しいし、見てる人はちゃんと見てると、どんなことが分かって感想を言ってくれるから
どちらかといえば楽しい	<ul style="list-style-type: none"> ・少し恥ずかしいけど、楽しいから
どちらかといえば楽しくない	<ul style="list-style-type: none"> ・恥ずかしいから
楽しくない	<ul style="list-style-type: none"> ・笑われると楽しくないから

(3) 手だての試案作成上の配慮事項

調査結果の分析と考察に基づき、手だてにかかわる配慮事項を次の四点とした。

ア 児童の意欲を持続させ、資料の世界に入り込み、役になりきらせるために小道具を活用する。

イ 児童の役割演技へのプラスの意識が演ずることの楽しさに終始しないように、演ずる意図を示してから、役割演技を行う。

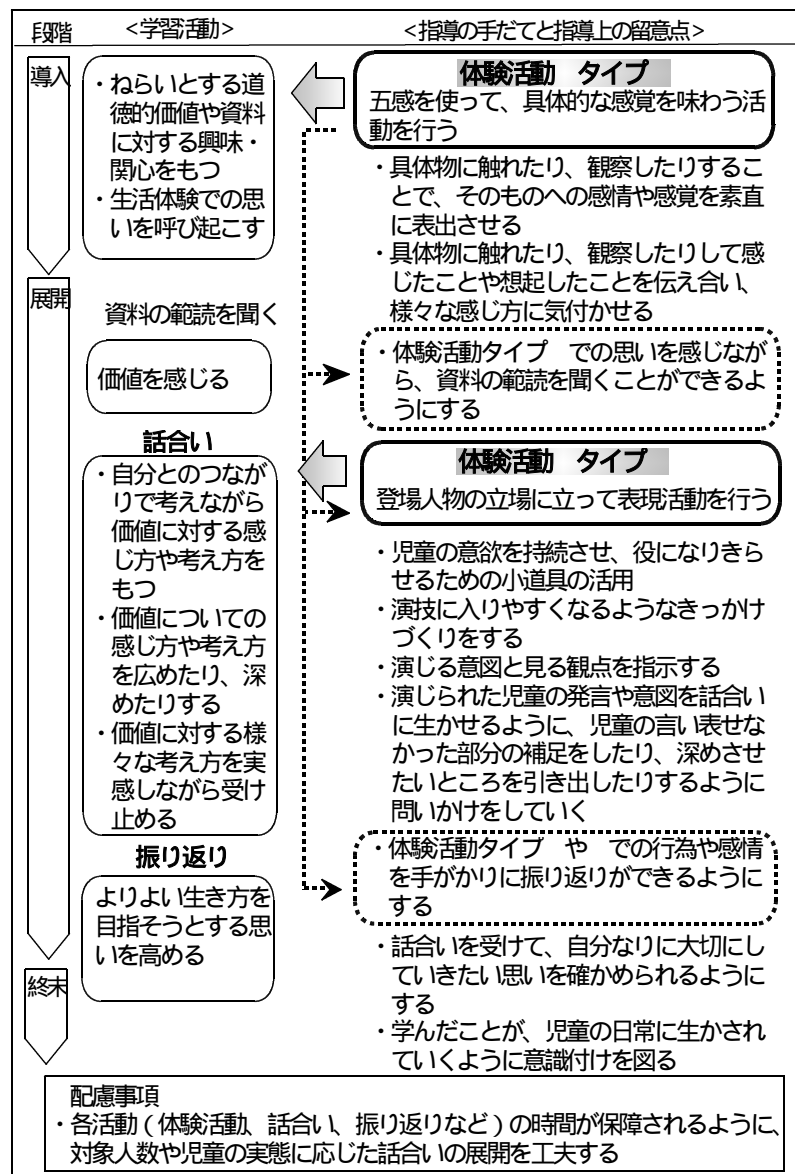
ウ 役割を演じた児童の発言の意図や考えを聞いて、他の児童が状況理解を深めることができるように、児童の言い表せない部分についての補足を加えたり、表情や間合いなどから見取った気持ちを語り合わせたりする。

エ 役割演技が中断してしまったときは、見ている児童が演者を支援できるように、自分だったらどのように演じたいかを考えさせる。

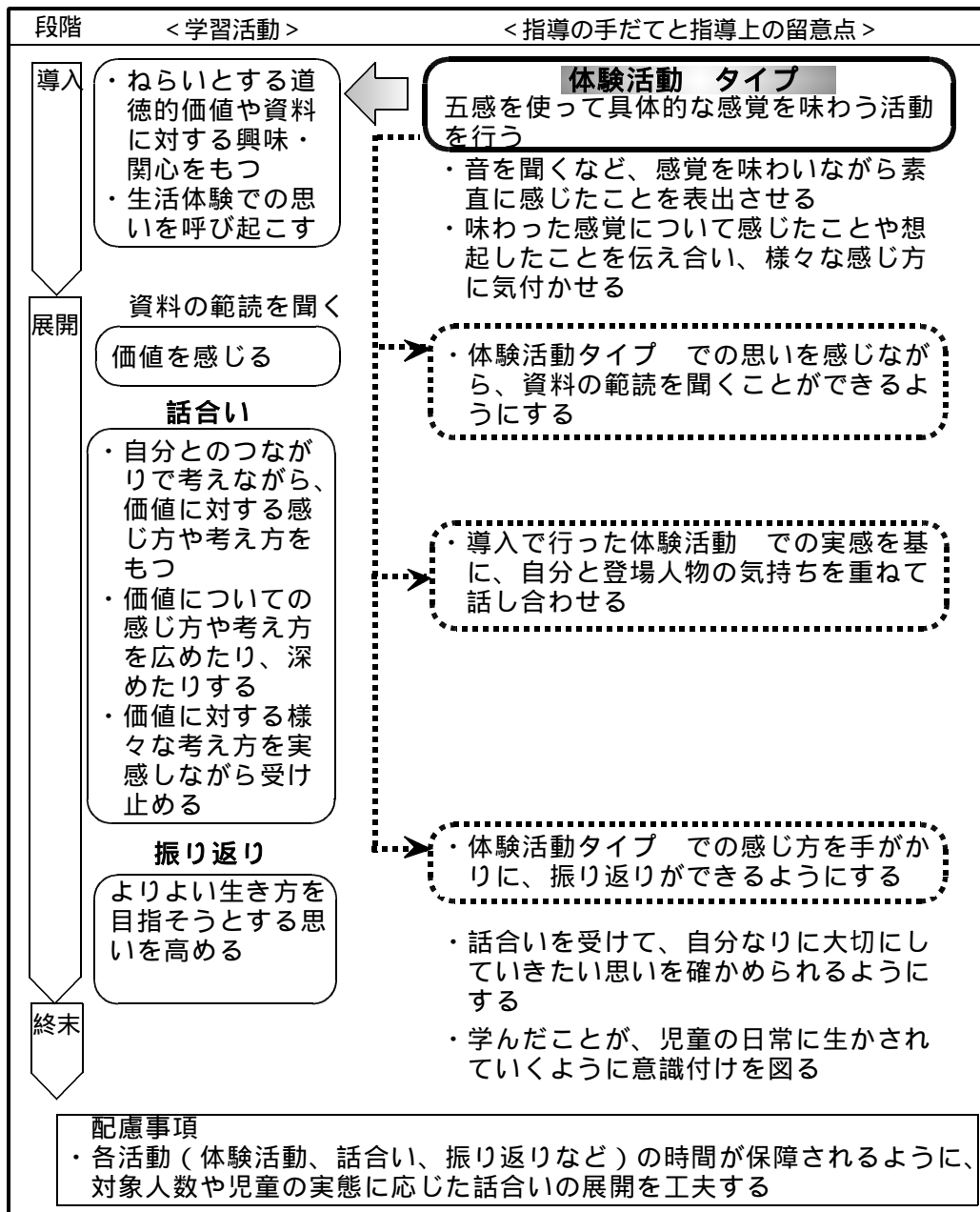
3 体験活動を組み入れた指導過程の工夫についての手だての試案の作成

(1) 体験活動を組み入れた指導過程の工夫についての手だての試案

基本構想と実態調査の結果を受けて、ねらいとする価値に応じて体験活動の組み入れ方を考えた手だての試案1と手だての試案2を【図2】、次頁【図3】のように作成した。手だての試案1は体験活動タイプとを組み入れたものであり、手だての試案2は、体験活動タイプのみを組み入れたものである。



【図2】体験活動を組み入れた指導過程の工夫についての手だての試案1



【図3】体験活動を組み入れた指導過程の工夫についての手だての試案2

(2) 検証計画

授業実践をとおして手だての試案の有効性を見るための検証計画を【表5】のように作成した。また、児童の発言や表現及び記述内容については、次頁【表6】のように見取りの観点を作成した。これを基に分析し、道徳的価値の自覚の深まりの状況をとらえることにする。

【表5】検証計画

検証内容	見取る段階	検証方法
道徳的価値の自覚の深まりの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・気付く ・とらえる ・たかまる 	【表6】に示した見取りの観点に基づき、ねらいとする価値の自覚の深まりにかかわる児童の発言内容や反応などを授業中の各段階の様子から分析し、考察する

【表6】道徳的価値の自覚の深まりについての見取りの観点

見取る段階	見取りの観点	児童の様子	自然愛・動植物愛護	生命尊重	
気付く	道徳的価値を自分なりに感じている	<ul style="list-style-type: none"> 主人公の考えや行為のよさを感じ取って話している 価値を感じ取って話している 友達の発言を受け、価値を感じて、同調している 	<発言例> <ul style="list-style-type: none"> 主人公が～したのがいいと思った 主人公は～と思った ～って～ということかな 	<発言例> <ul style="list-style-type: none"> 生き物がかわいい 優しく接している 主人公が生き物に優しくしているのがいい 主人公が優しいなあ 	<発言例> <ul style="list-style-type: none"> 心臓は、ドクドクしている 心臓ってこんな音をしているんだなあ
とらえる	道徳的価値に対する様々な考え方を受け止めている	<ul style="list-style-type: none"> 主人公の考え方や感じ方に共感している 価値的な行為をした主人公の気持ちや考え方のよさをとらえて、話している 発表している友達に注意を向けて、友達の考えに関心をもって聞いている 友達の考えを受けて、話している 友達の考えを聞きながらうなづくなどの反応を示し、同調しながら聞いている 	<発言例> <ul style="list-style-type: none"> 主人公は、～したときな気持ちだったと思う 主人公が、～できたのは～だったからだな心が大切だ ～さんの考えと似ていて～だと思ふ ～さんの考えは、自分もよく分かる 	<発言例> <ul style="list-style-type: none"> 主人公は、自分が助けなければという気持ちだったと思う 主人公は、早く元気になって欲しいという気持ちだったと思う 主人公は、相手に喜んでもらえてよかったという気持ちだったと思う 主人公は生き物の気持ちを考えて行動している 主人公が生き物を喜ばせることができたのは、生き物のことを考えてあげる優しさがあったからだ 	<発言例> <ul style="list-style-type: none"> 主人公は、初めて心臓の話聞いて、驚いたと思う 主人公は、生きていから、いろいろなことができるんだなと思ったと思う 主人公は、命は大切にしなければいけないなと思ったと思う
たかめる	道徳的価値の大切さを自分のこととして受け止め、よりよい生き方を目指そうとしている	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活を振り返り、ねらいとする価値が自分にとって大切なことであるという思いを話している 	<発言例> <ul style="list-style-type: none"> 主人公のように～の気持ちを大切に、～していきたい ～のとき、～できた。そのとき、主人公と同じように～な気持ちだったからだ。これからも～な気持ちで～していこう ～っていいことだな。～のとき自分も～していけそうだ ～のとき～していきたいなあ 	<発言例> <ul style="list-style-type: none"> 主人公のように生き物の気持ちを考えて優しく接していこう 生き物を大切にしていきたいなあ 自分は生き物のために餌やりを毎日していたぞこれからも続けていこう 自分が生き物のために世話を頑張っていたことはいいことだったんだなあ 	<発言例> <ul style="list-style-type: none"> 一つしかない命を大切にしていこう 生きてるって幸せだなあ 生きていから、いろいろなことができて幸せだなあ 生きててよかったなあ

4 授業実践

山形村立山形小学校第2学年（男子4名 女子10名 計14名）を対象に、手だての試案1、2に基づき作成した指導展開案に従い、授業実践を行った。

(1) 授業実践1 「自然愛、動植物愛護」

組み入れる体験活動 体験活動タイプ
体験活動タイプ

次頁【資料1】は、授業実践1の概要である。

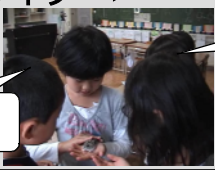



(2) 授業実践2 「生命尊重」

組み入れる体験活動 体験活動タイプ

10頁【資料2】は、授業実践2の概要である。

【資料1】授業実践1の概要

授業実践1	資料「りすとひまわり」3-(1) 自然愛、動物愛護
ねらい	身近な自然や動植物に親しみをもち、優しい心で接しようとする気持ちを育てる。
資料について	りすが、元気のないひまわりの芽を一生懸命に育て、大きな花を咲かせるまでの姿を描いたものである。りすが、元気のないひまわりの様子を見たり、その願いを聞いたりして、ひまわりが何をしてほしいのかを察しながら育てていく姿を共感的に追っていくことで、身近な自然や動植物に親しみをもち、優しい心で接しようとする気持ちを育てるのに適した資料である。

段階	学習活動	児童のつづやき・発言	教師の支援
導入	1. ねらいとする道徳的価値や資料に対する興味・関心をもつ。 周りにいる生き物を思い出す。 学級では・・・カタツムリ、クワガタ、ハムスター		
	2. 生活体験での思いを呼び起こす。 学級で飼育している生き物と触れ合う。	 <p>こうやって持ったよ。</p> <p>かわいいね。</p>	<p>生き物と触れ合うことで、そのものへの感情や感覚を素直に表出できるようにした。</p>
展開	体験活動タイプ で感じたことを伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> あったかいな。 ・世話が大変。 毛が気持ちいい。 死なせてしまったことがある。 		<p>体験活動タイプ で感じたことや教師がとらえたつづやきを伝え合い、様々な感じ方があることに気付くようにした。</p>
	3. 価値を自分なりに感じる。 資料「りすとひまわり」の範読を聞き、感想を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> きれいな花を咲かせていいな。 ひまわりがうれしそうだ。 りすが、優しいな。 		<p>生き物の世話をしているりすの話であることを伝え、伝え合いでの思いと資料とを結び付けながら範読を聞くことができるようにした。</p>
	4. 価値に対する様々な考え方を受け止める。 <話し合い> 木の陰でひょろひょろと伸びているひまわりに出会ったりすの気持ちについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> 伸びててよかったな。 ・どうして元気がないのかな。 かわいそう。 ひまわりの世話をするりすの気持ちについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> 枯れてたら大変、心配。 ・大きくなって欲しい。 水やりが大変だなあ。 登場人物になって役割演技を行う。	 <p>・遊びたいけど、心配。</p> <p>・枯らしたくないんだもん。</p> <p>・りすさんはひまわりの気持ちわかってるね。</p>	<p>「みんなと同じようにりすもひまわりを世話するとき、いろいろなことを考えたろうね。」と想像させた後で、りすの気持ちについての質問をした。</p>
	 <p>・遊びたいけど、心配。</p> <p>・枯らしたくないんだもん。</p> <p>・りすさんはひまわりの気持ちわかってるね。</p>		<p>児童と一緒に場面の状況設定を確認しながら行うことによって、主人公の姿に自分を重ね合わせて考えやすいようにし、自然に生活体験とのつながりをもった気持ちが出出されるようにした。</p>
	大きな花を咲かせたひまわりを見たときのりすの気持ちについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> 育ててよかったな。 ・あのままだったらかわいそうだった。 ひまわりの気持ちを考えて世話を頑張った。 		<p>生き物が自分たちにどんな気持ちをもっているかと考えさせることで、これまでの自分の生き物へのかかわり方を見つめることができるようにした。</p>
5. よりよい生き方を目指そうとする思いを高める。 <振り返り> <ul style="list-style-type: none"> たくさんお世話してくれると気持ちいいなあって。 掃除をしてあげると、ここにいたいなって。 なかよしになって一緒に遊んであげる。 優しい気持ちで一緒に過ごす。 			

【資料2】授業実践2の概要


授業実践2	資料「ふしぎな音」3-(2) 生命尊重
ねらい	命の存在やすばらしさに気づき、かけがえのない命を大切にしようとする心情を育てる。
資料について	校医の先生の命にかかわる話に驚いた主人公が、聴診器で自分の不思議な心臓の音を耳にし、たった一つしかない命への思いを深めていくという話である。校医の先生の命にかかわる話に驚き、自分の命について知りたくなる主人公の気持ちに共感させながら、命があるからこそ人間はいろいろなことができることやその命には限りがあることに気付かせ、かけがえのない命の大切さについて考えさせるのに適した資料である。

段階	学 習 活 動	児童のつぶやき・発言・様子	教師の支援
----	---------	---------------	-------

1. ねらいとする道徳的価値や資料に対する興味・関心をもつ。
「命」とはどんなものか考える。
 ・え～?! ・自分の中にある。 ・見えない。 ・生きてること。

2. 生活体験での思いを呼び起こす。
聴診器で自分の心音を聞く。

<体験活動タイプ>



- ・心臓の音が聞こえて、ほっとしている。
- ・にこにこしながら、心臓の音に耳を傾けている。
- ・友達と心臓の音を聞き合っている。

ドキッ、ドキッ

じっくりと耳を傾けて自分の心臓の音を聞くことができたようにした。

体験活動タイプ で感じたことを伝え合う。

- ・初めて聞いて、こんな音があと思った。
- ・ドクッ、ドクッて音でした。



体験活動タイプ で感じたことを伝え合い、様々な感じ方があることに気付くようにした。

3. 価値を自分なりに感じる。
資料「ふしぎな音」の範読を聞き、感想を発表する。
 ・心臓のことが初めてわかった。
 ・心臓が止まってしまうんだあ。
 ・心臓があってよかったな。

児童と同様に心臓の音を聞いた男の子の話であることを伝え、伝え合いでの思いと資料とを結び付けながら範読を聞くことができたようにした。


4. 価値に対する様々な考え方を受け止める。
<話し合い>
 校医の藤原先生から、命のことについての話を聞いたしょうた君の気持ちについて考える。
 ・すごいなあと思って、びっくりしたと思う。
 ・こわいなあ。
 ・3分で命がなくなるのは、ちょっと早いなあ。
 ・自分のが止まったら、どうしよう。

児童と同様に主人公も初めて心臓の音を聞いたことを押さえて、主人公の気持ちについて考えさせるようにした。

心臓の音を聞いたしょうた君の気持ちについて考える。
 ・初めて聞いたけど、こんな音してるんだあ。
 ・他の人はどうなってるのかな。

胸に感じる心臓の音の響きを感じさせながら、命があるからできることについて考えさせた。また、それは、毎日あたり前のように行っていることであるということに気付かせるようにした。

しょうた君が、本当にそうだなあと思った気持ちについて考える。
 ・命がないと生きていけない。
 ・命がないと動くこともできない。
 ・命は一つで、命は大切にしないといけない。
 ・生きててよかったな。
 ・いろんなことは、生きているからできるんだ。



5. よりよい生き方を目指そうとする思いを高める。
<振り返り>
 自分の命に手紙を書く。
 ・命さん、ありがとう。
 ・命は大切にしないと。
 ・生きててよかったな。

自分の胸に手をあて、感覚を味わいながら、命に語りかけるようにすることで、自分の想いをじっくりと考えさせるようにした。

5 実践結果の分析と考察

前述の7頁【表5】の検証計画に基づいて、道徳的価値の自覚が深まる状況について、授業記録から分析と考察を行った。

(1) 体験活動タイプ とタイプ を組み入れた指導過程による道徳的価値の自覚の深まりの状況

ア 気付く段階における道徳的価値の自覚が深まる状況

授業実践1（資料「りすとひまわり」3 - (1)自然愛、動植物愛護）では、導入時に、体験活動タイプ として学級で飼育しているハムスターとふれ合う活動を組み入れた。【資料3】は、その際の児童の反応の一部をまとめたものである。

の「あったかい」のように生きている感覚を味わったことによる感想や、

の「かわいい」のような生き物への思い、 のように世話する際の苦労、

のような世話をしている際の失敗経験等を素直に表出している。

の「かわいい」という発言は、生き物への親しみを感じている姿である。また、 の生き物を優しくなでて、友達に「だめ。そんな持ち方したら」と注意している姿や、 の「眠いんじゃない？」、 の「気をつけてよ」、 の「取り合いしたらかわいそう」と気遣う姿は、生き物の気持ちを考えて接しようとする発言や行動である。これは、生き物に親しみをもつことや生き物を大切にすることについての道徳的価値を感じている状態である。

また、【資料4】は、資料の範読を聞いた児童の感想の一部である。児童は、りすの行為のよさをとらえて「優しい」と発言しており、これに同調もしている。

これらのことは、体験活動タイプ を組み入れ、生き物に直接ふれたり、観察したりしたことで、具体的な感覚を味わうことができるようになり、感情が素直に表出されやすくなったことによるものと考えられる。そして、生き物に対する気持ちを自然に表現しやすくなったことで、ねらいとする価値にかかわる生活場面やそのときの気持ちを想起しやすくなったと考えられる。

イ とらえる段階における道徳的価値の自覚が深まる状況

授業実践1では、展開に体験活動タイプ として役割演技を組み入れた。次頁【資料5】は、体験活動タイプ についての授業記録の一部である。

【資料3】体験活動タイプ での児童の反応

- C1・2・3：「あったかい。気持ちいい。」
- C4：「かわいいね。」
- C5：「かわいい。」優しくなでている。友達の様子を見て、「だめ。そんな持ち方したら。」と注意している。
- C6：「この下に敷く木をかえるのが大変なんだよ。」
- C7：「餌やりを忘れた。」
- C8：「前ね、ぎゅうっとやって死なせたことがある。」
- C9：「眠いんじゃない？」
- C10：「気をつけてよ。」「楽しい。」「ハムスターの持ち方は、こうだよ。」
- C11：慣れない手つきで、片手で持ち上げている。扱いがやや乱暴。友達からの注意を受け、気を付けて触ろうとしている。
- C4・7・12・13：
(黙って見ていたので尋ねたところ)「取り合いしたらかわいそうだから。」
- C14：初めて触った。

「注」 丸数字は、児童の反応として、文章中の丸数字と対応している

【資料4】授業実践1の 授業記録

- C1：りすがひまわりの面倒をみていて、ひまわりがうれしそうよかった。
- C10：りすが、ひまわりを日に当たるところに連れていってあげたり、水を毎日あげたりして、優しいな。
- C7：りすが毎日水をやったり、植えかえたりして、りすが優しい。
- C2・3・9：
りすが、ひまわりの看病とかを一生懸命、毎日やってて、優しいなあ。

【資料5】の～は、役割演技を行う前の児童の発言である。～は、ひまわりを心配する気持ちや成長を願う発言が多い。そのため、一人目の役割演技では、心配だから毎日世話をするというりすが演じられた。見ている側からは、枯らしたくないという気持ちやひまわりの気持ちを考えてあげている優しさに目が向けられ、

のように生き物の気持ちを考えて接することのよさをとらえることへの広がりが出ている。

これは、体験活動タイプを組み入れたことにより場面の状況把握がしやすくなったことで、主人公の気持ちについて新しい観点からの気付きがなされたことによるものであると考えられる。

また、の水やりの大変さについての発言は、体験活動タイプで感じていた生き物を世話する際の大変さについて、同様の観点から考えているものである。は、

の思いを見取って、T1のように体験活動タイプにつなげたことによる反応である。これらのことは、体験活動タイプでの思いを基にして主人公の気持ちを考えていることによるものと考えられる。そして、体験活動タイプを行うことで、生き物を心配する思いを強めている。

二人目の役割演技では、枯らしたくないという強い気持ちから、ひまわりの様子を詳しく見ているりすが演じられた(～)。演技の中で、演者は、土がからからに乾いている様子を想像して語り出している(

)。この発言から、児童が日常体験の中で、植物を育てた際に土の様子を見ながら水やりをしたことを想起しながら演じていることをうかがうことができる。また演者は、

のように「枯らしたくない」と実感のこもった発言を繰り返していた。見ている側からは、枯らしたくない気持ちが分かる

【資料5】授業実践1の授業記録

T：毎日お世話をしているりすは、どんな気持ちだったでしょう。

- C12：早くおあって、きれいなひまわりがたくさんになるといいな。
- C2：また、枯れないかなあ。
- C11：水やりとかしてあげよう。
- C7：大きくなって欲しいし、水やりが大変だなあ。
- C12：大きくなれるのかなあ。

一人目の役割演技

<中略>

- T1：係でもないのに毎日毎日、世話をしにくるのは大変じゃないの？
- C2：大変じゃないよ。
- T2：遊びたいときもあるんじゃない？
- C2：遊びたいときもあるけど、こっちの方が心配だから。

一人目の役割演技を見ていた側の感想

- C5：優しい。
- C12：枯らしたくない気持ちが伝わってきた。
- C8：優しいし、りすさんはひまわりの気持ちが分かってるなって思った。

二人目の役割演技

- C12：あっ、からからだ。いつもより、土が薄くなってるぞ。水を汲んでこないと。
 - C12：大丈夫？ひまわりさん。
 - T3：うん、とってもいい気持ちになってきたよ。どうして、私がお水を欲しいことが分かったの？
 - C12：土の色がすごく薄くなっていたり、柔らかくなっていたからだよ。
 - T4：りすさんは、よくみていてくれるんだね。
 - C12：だって枯らしたくないんだもん。
- <中略>
- C12：やらないと枯れちゃうんだよ。

二人目の役割演技を見ていた側の感想

- C6：枯らしたくない。
- C7：友達とかと遊ばないで、ひまわりの面倒をいっぱい頑張る。
- C2：自分が植えたから、自分が食べるのがなくなったりするから、枯らしたくないし、自分を食べさせてくれるものだから、枯らしたくない。
- C9：食べれなくても・・・。
- C10：種がもらえなくても、またお世話をすれば、元気なひまわりになる。
- 21 C9：きれいな花とかを見れるし、自分が植えたのだから、責任をもってやらなきゃ。
- 22 C2：似てて、種がなくても花は、絶対咲いて見れるから、それに、自分が植えて水とかをやったから、責任もって。
- 23 C7：花だけでもうれしい。

多くの児童が、見返りがなくても世話をするとする反応をしている。その理由については、元気になって欲しい気持ち()、花を見られるからという気持ち(21 23)、自分が植えたのだからという気持ち(21 22)と多様な発言がなされた。このように体験活動タイプ を組み入れる前後では、「枯れないかなあ」() 「枯らしたくない」() と世話をするりすの気持ちの強さが増し、変容がみられた。

これらのことは、体験活動タイプ を組み入れたことにより、主人公の姿に自分を重ねることができ、自然に日常生活での体験が想起されやすくなったことや、言葉のやりとりだけではイメージされなかった状況が

具体的に把握しやすくなったことによるものと考えられる。また、体験活動タイプ での思いを見取って、体験活動タイプ につなげたことで、主人公の気持ちを共感してとらえやすくなったものと考えられる。

ウ たかまる段階における道徳的価値の自覚が深まる状況

振り返りでは、ハムスターの気持ちになって自分を振り返る活動を行った。【資料6】は、振り返りでの児童の発言の記録の一部である。 は「掃除をしてあげよう」、「一緒に遊んであげよう」という振り返りである。これは、生き物の気持ちを考えて、生き物を大切にしていきたいという思いがたかまっている姿であると見取することができる。

そしてこれらの振り返りは、体験活動タイプ での思いと同様の観点で行われており、体験活動タイプ での思いを手がかりにしていることをうかがうことができる。児童が生き物の立場から自分について考えることで、これまでの自分の生き物への接し方や思いを客観的に見つめることができたと考えられる。

また、 と振り返りの視点が同様の部分がある。児童は、友達の発言内容を受けて、「それなら自分にも経験がある」「それなら自分にもできそうだ」と考えを広げている。共通体験を基にした振り返りにより、周りの児童と思いを共有できたためと考える。ただし、共通体験の振り返りだけに終わらず、対象となる動植物や生活場面にまで思いを広げて考えられるようにする配慮が必要であった。例えば、ハムスターとの触れ合いが日常的に薄いと思われた児童(11頁【資料3】の)は、振り返りが難しそうであった(【資料6】の)。これは、体験活動タイプ の際の児童の様子を十分に把握したり、話合いや振り返りで意図的に指名したりといった支援が足りなかったためと考える。

以上のことから体験活動タイプ を導入で組み入れたことは、生き物との触れ合い場面の想起を基に、ねらいとする道徳的価値から逸れることなく、価値の自覚を深める上で有効であった。また、体験活動タイプ を組み入れたことは、低学年の児童の言葉のみではイメージがとらえにくいという部分を補うことができ、主人公の気持ちを実感してとらえ、ねらいとする道徳的価値を自分のこととして結び付けてとらえる上で有効であった。

【資料6】授業実践1の授業記録

C12: 飼ってもらったのに何もしてもらえないとまた戻りたいけど、たくさんお世話してくれると気持ちいいなあ。あまり汚いところにはいたくないから。

C7: 好きで飼ってもらったと思ってるのに、遊んでももらえなかったり、掃除もしてくれなかったりしたら、またきれいなところに行きたいなあと思ってるけど、きれいにしてあげたり、掃除もしてあげたり、遊んであげたりしてればここにいたいなって気持ちになってくれると思う。

C8: いつも夜、犬を家の中に入れてあげるからありがとうって言ってる。

C11: (ハムスターとのかかわりからは、振り返りが難しそうなお表情をしていた。) クワガタが、餌をありがとうって言ってる。毎日餌をあげているから。

C7: なかよしになって一緒に遊んであげる。

C9・10: りすのように優しい気持ちで。

(2) 体験活動タイプ を組み入れた指導過程による道徳的価値の自覚の深まりの状況

ア 気付く段階における道徳的価値の自覚が深まる状況

授業実践2(資料「ふしぎな音」3-(2)生命尊重)では、導入時に生活体験活動タイプとして、自分の心臓の音を聞く活動を組み入れた。【資料7】は、その際の児童の反応の一部をまとめたものである。

「母親の心臓の音を聞いたことがあること」や「胸に手をあてて心臓の動きを感じ取ったことがあること」など、命の存在を意識したことがあるという生活体験を想起している反応()、驚きの表情を表し、感じたことを友達に伝えようとしている様子()、心臓の音にじっくりと耳を傾けたり、友達の心臓の音を聞き合ったりと興味・関心を高めている様子()が見られた。さらに体験活動タイプ で感じたことを伝え合った際には、どんな音であったか(~)や初めて心臓の音を聞いての感想()が話された。これらは、命の存在に気付くというねらいとする道徳的価値を感じている状態である。

また【資料8】は、資料の範読を聞いての児童の感想である。資料中の命についての話は、児童にとって初めて知る内容のものであったようだ。そのため、 のように心臓が止まってしまうことや、なぜ心臓は動き続けられるのかといったことに強い関心が向けられている。 は、「命があるから日常の様々なことができる」と命があることのすばらしさについて感じている内容である。

これらのことは、体験活動タイプ を導入に組み入れたことで、生きていく証の一つである心臓が動いているということをもっと具体的な感覚をもって感じるようになったことによるものと考えられる。また、心臓の音を聞いたことのない児童が多かったことから、命の存在を意識するという児童の体験の不足が補われ、命の存在に気付くことができたと考えられる。

イ とらえる段階における道徳的価値の自覚が深まる状況

次頁【資料9】、【資料10】は、授業実践2の話合いの際の児童の発言の内容である。体験活動タイプ の活動後、「心臓の音はドクッ、ドクッとしていた」(【資料7】)、「初めて聞いて、こんな音だったんだと思った」(【資料7】)という感想が話された。これは、主人公の気持ちを考えて話された発言内容(【資料9】の)と同様のものではなかった。また、【資料7】の の友達の心臓の音を聞き合っている行動と【資料9】の の他の人の心臓の音を聞

【資料7】体験活動タイプ の児童の反応

<体験活動タイプ >

- T:自分の心臓の音を聞いたことがあるか?
C1:「自分のじゃなくて、お母さんのはある。」とつぶやく。
C2:胸に手をあてて心臓の動きを確かめた後、「手をあてれば」と発言。
C3:胸に手をあてて心臓の動きを確かめている。C1の発言を聞きながら手に感じた動きを隣の児童に話している。
C4:右胸に聴診器をあてて、「聞こえない。」と言っている。その後、左胸にあてることを知り、心臓の音を確認するとほっとしている。
C2:驚きの表情をし、友達に心臓の音の響きについて話している。
C1・5・6・7・8・9・10:
静かに黙って、自分の心臓の音に耳を傾けている。
C2・11・12・13・14:
聴診器で自分の心臓の音を聞いた後、友達とお互いの心臓の音を聞き合っている。

<体験活動タイプ で感じたことを伝え合う>

- C8:深い感じの音がしました。
C1・2・4・8・9・11・12・13・14:
心臓の音はドクッ、ドクッ。
C4:かすかな音しか聞こえなかった。
C5:何かをたたくような音だった。
C1・5・11・12・13・14:
初めて聞いて、こんな音だったんだと思った。

【資料8】授業実践2の授業記録

- C3・7:何で、心臓は、休まずに動いているのか?
C7:心臓が三分間止まると死んでしまうと初めて分かった。
C12:心臓がないと本を読んだり、サッカーしたりできないし、あってよかったな。
C4:C7君と同じで心臓は、三分間で止まってしまうんだなあ。

きたくなる気持ちは、一致して表されている。児童が、自分と主人公を重ね合わせて考えることをうかがうことができる。これは、体験活動タイプにより資料中の主人公と同様の感覚や感じ方が味わえたことで、主人公の気持ちを考えやすくなったことによるものと思われる。

また、【資料10】に示した児童の発言内容からは、の発言を機に「いろいろなことができる命のありがたさ」、の発言を機に「かけがえのない命の大切さ」、の発言を機に「生きていることの喜び」についてというように、友達の意見を受け止め、共感しながら、命あることのすばらしさや大切さについての考えを広げたり、深めたりしていることを見取ることができる。

これは、組み入れた体験活動タイプとの関連を基にした話合いにより、生きていることの具体的な感覚をもちながら、命あることのすばらしさやかけがえのない命の大切さについてとらえることができたためであると考えられる。

ウ たかまる段階における道徳的価値の自覚が深まる状況

次頁【資料11】は、振り返りで児童が書いた内容の一部である。振り返りでは、体験活動タイプで児童が提案した、胸に手をあてて心音の響きを感じることをさせてから、自分の命に手紙を書くことによって自分を見つめさせた。

児童の振り返りの内容は、「自分は生きている」「命がある」と自分の心臓は動いていて生きているということの実感のともなった理解()、「本当に生きていてよかった」()と命があることへの実感のともなった喜び、「幸せだ」「ありがとう」()と命があることへの感謝、「かけがえのない命を大切にしていきたい」()という思いについて振り返っているものがほとんどであった。のように「学校に走って行くとき、心臓の音がドクドクしてる」と、自分の生活体験をもう一度想起しながら振り返っているものもあった。さらに、の内容にみられるように、「自分以外の命」についてまでも考えを深めている児童や、のように「命を大切にすることとは？」と考えを深めている児童も見られた。また、「命は一度失ったら、取り戻せないことを初めて知ってよかった」()という児童もいた。これらは、かけがえのない命を大切にしていきたいという思いがたかまっている姿であると思取ることができる。

これは、体験活動タイプを組み入れたことにより、自分が生きているということを実感しながら命について見つめることができたためであると考えられる。

以上のことから、体験活動タイプを導入で組み入れたことで、心臓の音を感じたことがあるという生活体験の想起や児童の体験の不足を補うことができ、命の存在についての具体的な感覚

【資料9】授業実践2の授業記録

心臓の音を初めて、聞いた主人公の気持ちを考える。
 C5・6：心臓ってこんな音をしてるんだあ。
 C2：つけたして、こんな音なんだ。初めて知った。他の人のは、どうなっているのかなあ。
 C1：命がなくなったら、全部できなくなる。

【資料10】授業実践2の授業記録

T：しょうた君は、どんなことを本当にそうだなあと思ったのでしょうか。
 C12：命がないと生きていけない。
 C3：命がないと動くこともできない。
 C2：心臓が止まったら、うちに帰れなくなるな。
 C7：どこにも行けなくなる。
 C12：命がなくなったら、もとに戻れなくなるから大変だな。
 T：交換できないものね。電池みたいに。
 C7：うん、それはロボットだ。
 C1：人に電池とか入るわけない。
 C1：命は一つだ。
 C5：命は一つで、買えない。
 C2：お店とかどこにも売っていないし、砂場とかにもないし、命は大切にしないと。
 C12：命がないと友だちと遊んだりできなくて、生きててよかったな。
 C4・5：生きているからいろんなことができて、生きててよかったな。
 C8：もし、友達の心臓が止まったら、何にもできないし、プールもできない。
 C2：生きてるってことは、みんなで遊んだり、お勉強したりできることだから、大切だな。
 C7：人はどうして死んでしまうのだろう。
 C5：いろんなことができるってことは、生きているからできるんだな。

を伴いながら命の大切さを実感することができた。また、ねらいとする道徳的価値から逸れることなく自分の命について振り返ることができるため、ねらいとする価値についての自覚を深める上で有効であった。

しかし、【資料11】の は自分の命について心配する内容のものであり、命を大切にしたいという思いまでたかまった内容としての記述はみられなかった。これは、命についての話の内容を初めて知った児童にとって、心臓が止まってしまうことがあるということの驚きが強かったためと考えられる。そのことは、話合いの中での主人公の気持ちとして、「自分の心臓が止まってしまったら、どうしよう」と発言していることから分かる。前頁【資料9】の のように「もし命がなくなったら、いろいろなことが全部できなくなる」と発言していることから、命の大切さについては理解していると考えられるが、振り返りの際に、自分には命があり、生きていたのだということに目を向けさせるような問いかけなどの支援が足りなかったと考える。

【資料11】授業実践2の授業記録

- C 5 : 私が、生きてできることは全部、心臓が動いているからできることで、命はどんなものより一番大切なものです。命はお金を出しても買えないものだから、命は大切にしなければダメです。大切にすることは、どうやるかということ、一生懸命生きることです。
- C 12 : 命があつてよかったなあと思います。私が好きなご飯も食べられるし、水泳だってできます。大切だからこそ、買えないと思います。みんなの命の音は、同じなのかなあ。お姉ちゃんも生きてるから、一緒に遊んだりできるんだなあ。命が一番大切だから、一番大切なのは自分と人の命です。花も生きているから、抜くときはあやまってからとって飾るとか抜いてからのことも考えた方がいいんだなあと思いました。
- C 6 : 私は、死んだら運動とか、勉強ができないから、生きていてよかったです。生きていたら運動も歯磨きも本も遊びも勉強もいろいろできて幸せだな。
- C 14 : 命さん、休まなくて毎日ありがとう。時々学校に走って行くとき、心臓の音がドクドクしてる。命って大切だなあ。命を大切にしよう。C 5 ちゃんと同じで命はお金では買えない。だから、本当に自分が生きててよかったなあと思いました。
- C 2 : 命は大切なもので、いいものなのです。命は、みんなを守るものでもあるので、みんなを守ってください。動物とかも命があります。命は大切だと思いました。
- C 11 : テレビでも命さんが死んじゃって、その大人の人死んじゃったドラマを見たんだ。私の命もなくなったら、お母さんが悲しむだろうね。命は宝物です。動物の命も宝物。とりも魚も木も花もカタツムリもトンボもハムスターもみんな命が宝物。みんなみんな生きてるんだ。宝物、宝物。
- C 8 : 一回、自分が死んだら生きられない。初めて知ってよかったです。
- C 1 : 毎日十一万回近くも動いてすごいなあと思いました。後、もしも止まったら大変だなあ。

6 低学年における道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する研究のまとめ

これまで、手だての試案に基づき授業実践を行い、実践結果の分析をとおしてその有効性について検討してきた。そこで、低学年における道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導についての「成果」と「課題」についてまとめることにする。

(1) 成果

ア 体験活動タイプ を導入に組み入れたことにより、児童は感じたことを自然に表出させ、生活体験の中でのねらいとする価値にかかわる場面やそのときの気持ちを具体的に想起させることができた。そこで感じたことを話合いに生かし、自分とのかかわりで価値について考えさせることができた。

イ 体験活動タイプ を展開に組み入れたことにより、主人公の姿に自分を重ね、生活体験の中でのねらいとする価値にかかわる場面やそのときの気持ちを想起させることができた。また、低学年の児童の言語能力の不足が補われ、言葉のやりとりだけではとらえにくかった状況把握がなされた。さらに、体験活動タイプ での児童の行為や気持ちを見取って体験活動タイプ につなげたことで、ねらいとする道徳的価値を自分と結び付けて考えさせ、主人公の気持ちや行為のよさを実感してとらえさせることができた。

ウ 低学年の児童が物や生き物などに心で語りかけることができるという特性を生かして、体験活動タイプ で想起したこれまでの自分の姿（行為の在り方や気持ち）を客観的に見つめさせたことで、学習した価値の大切さと照らし合わせながら、ねらいとする道徳的価値から逸れることなく自分を見つめ直させることができた。

(2) 課題

体験活動タイプ での感じ方や思いを生かして振り返ることが難しい児童がいた。そこで、体験活動タイプ の際に児童の様子を十分に把握しておき、児童一人一人に応じた配慮ができるようにする必要がある。また、体験活動タイプ の後、伝え合いの際に話された児童の感じ方や思いを指導者が書き残しておき、振り返りの際に児童が自分の姿を意識するための手がかりになるように示すことで、個に応じた振り返りがなされるような工夫の必要もある。

以上のことから課題はあるもの、小学校低学年の道徳の時間の指導において、体験活動を組み入れた指導過程の工夫は、道徳的価値の自覚を深める上で効果があると考えられる。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

本研究は、体験活動を組み入れた指導過程の工夫をとおして、道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導について明らかにし、低学年における道徳の時間の指導の改善に役立てようとするものであった。研究の結果、仮説の妥当性が確かめられた。なお、成果として確かめられたことは、次のとおりである。

(1) 低学年における道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する基本構想

低学年の発達の特性と道徳性の育成の留意点を考慮し、「具体的なイメージをふくらませるための体験活動タイプ 」と「登場人物の気持ちを実感してとらえるための体験活動タイプ 」を設定した。ねらいとする価値に応じて道徳の時間の指導過程の中にこの体験活動タイプ ・ を組み入れ、生活体験との関連を図る指導の工夫を取り入れた基本構想を立案することができた。

(2) 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察

基本構想に基づき、手だてにかかわる実態を調査し、その分析と考察を行った。そのことにより、役割演技に対する児童の意欲を生かし、登場人物の気持ちを実感してとらえられるようにするためには、「役割になりきらせるための雰囲気づくりをすること」、「演ずることの楽しさに終始しないように演じる意図を確かめること」、「自分だったらどのように演じたいかを考えさせること」、「役割を演じる児童の言語能力を補いながら気持ちを引き出すような問いかけをすること」という配慮が必要であることが明らかになった。

(3) 体験活動を組み入れた指導過程の工夫についての手だての試案作成

基本構想及び実態調査の分析と考察から明らかになった配慮事項に基づき、ねらいとする価値に応じて体験活動を組み入れ、そこで感じたことを話合いや自分を振り返る活動に生かすという生活体験との関連を図った指導を行うための手だての試案を作成することができた。

(4) 授業実践

手だての試案に基づく授業実践により、体験活動を組み入れた指導過程の工夫についての手だての試案の有効性を検討するための結果を得ることができた。

(5) 実践結果の分析と考察

「気付く」「とらえる」「たかまる」という児童の価値の自覚の深まりの状況を見取りの観点とした検証計画に基づいて、授業実践結果の分析と考察を行い、体験活動を組み入れた手だての試案が、低学年において道徳的価値の自覚を深める上で有効であることを確かめることができた。

(6) 低学年における道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する研究のまとめ

授業実践結果の分析と考察を基に、道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導について、成果と課題を明らかにすることができた。

2 今後の課題

本研究では、低学年の道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関して、授業実践をとおし実践的に明らかにしてきた。本研究を更に生かしていくための課題として、次の二点が考えられる。

- (1) 体験活動を組み入れたことによる効果を生かした話合いのさせ方について工夫すること。
- (2) ねらいとする道徳的価値に応じて、組み入れ可能な体験活動を探ること。

おわりに

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と児童のみなさんに心から感謝を申し上げ、結びのことばといたします。

【参考文献】

石井梅雄(2005),「作者が語る道徳資料」,『道徳と特別活動』8月号,文溪堂,pp.52-53

岩手県道徳教育研究会(2000),『Q&A 道徳教育』,岩手県道徳教育研究会

押谷由夫(1999),『新しい道徳教育の理念と方法』,東洋館出版社

押谷由夫(2002),『新しい教育課程の展開 小学校道徳 基礎・基本と学習指導の実際』,東洋館出版社

菅生知子(2005),「命を感じ、生きている自分に出会おう」,『道徳と特別活動』9月号,文溪堂,pp.22-25

早川裕隆(2004),『シリーズ・道徳授業を研究する 1 役割演技を道徳授業に』,明治図書

光文書院(2004),『ゆたかな心 新しい道徳 2年 教師用指導書』,pp.7-28

補充資料

< 目 次 >

【補充資料 1】	実態調査の調査紙	-----	資 1
【補充資料 2】	授業実践 1 の指導案（略案）	-----	資 2
	主題名 生き物のことを考えて 「自然愛・動植物愛護 3 - (1)」		
【補充資料 3】	授業実践 2 の指導案（略案）	-----	資 5
	主題名 かけがえのない命 「生命尊重 3 - (2)」		

アンケートのおねがい

このアンケートは、どうとくの 学しゅうを 楽しく
するために つかいます。じぶんの 思っていることに
—ばん ちかいものを えらんで ()に をつけ
てください。



2年 ばん 名前

1. あなたは、どうとくの じかんに みんなの 前で げきを するこ
とは 楽しいと 思いますか。

ア () 楽しい

イ () どちらかといえば 楽しい

ウ () どちらかといえば 楽しくない

エ () 楽しくない

2. を つけた わけを おしえて ください。

【補充資料 2】

第 2 学年 道徳学習指導案

日 時 平成17年 9月 7日 1校時
児 童 山形村立山形小学校 2年教室
第2学年 男子4名 女子10名 計14名
授業者 柏 木 路 子 (長期研修生)

1 主題名 生き物のことを考えて (自然愛・動植物愛護 3 - (1))

2 資料名 りすとひまわり (文部省資料)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

学習指導要領道徳の第2章、第1学年及び第2学年の内容の3「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」の(1)に「身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する」とある。3の視点は、自己を自然や美しいもの、崇高なもののかかわりにおいてとらえ、人間としての自覚を深めることに関するものであり、自然や動植物を愛し大切にすることを育てようとする内容項目である。

低学年の児童にとって、「身近な」自然環境とは、特に動植物に焦点が当てられていると思われる。これらに「親しみ、接する」ということは体験が重んじられているということであり、その際の心のありようとして「優しい心」で親しみ、接することが大切であると考えられる。

昔から日本人は、自然に親しみ、自然と一体になりながら動植物を愛護し、豊かな情操を育ててきた。しかし、地球全体の環境の悪化が懸念される現在、自然や動植物を愛し自然環境を大切にしようとする態度は、私たちも、そして次の世代を担う児童等もぜひ身に付けなければならない大切な道徳的価値である。

(2) 児童について

この時期の児童は、動植物に強い興味と関心をもっている。身近な動物にすぐに触れてみたり、きれいな花を見て摘んでみたり、実や種を大切に集めたりしている場面に出会うことも多い。しかし、動植物をいたわろうとする心や態度というよりも自己中心的な接し方で、一時の気まぐれや思いつきで飼ったり育てたりすることが多い。自分が飽きてしまうと、動物が死にそうになったり、植物が枯れそうになったりしていても気付かずにいる場合もある。また、対象学級の児童は、自然豊かな環境の中で生活しているがゆえに、身の回りの自然の大切さをあたりまえと感じていることが多い。このような実態は、動植物に優しい心で接することの大切さを理解できているとは言い難い。

そこでこの時期の児童に、自然の中で遊んだり動植物に触れたりする機会を多く与えながら、自らの体験をとおして、それらに優しい心で接しようとする気持ちを育てることは大切なことであると考えられる。

(3) 資料について

本資料は、りすが、元気のないひまわりの芽を工夫しながら一生懸命に育て、大きな花を咲かせるまでの姿を描いたものである。りすが、元気のないひまわりの様子を見たり、その願いを聞いたりして、ひまわりが何をしてほしいのかを察しながら育てていく姿を共感的に追っていくことで、自然や動植物を大切にしようという心情を育てるのに適した資料である。

(4) 指導にあたって

導入では、学級で飼っている生き物と触れ合う活動を組み入れる。この活動により、自分なりの生き物への思いを素直に表出させ、自分と生き物とのかかわり方について具体的なイメージをもたせながら資料の範読を聞かせる。

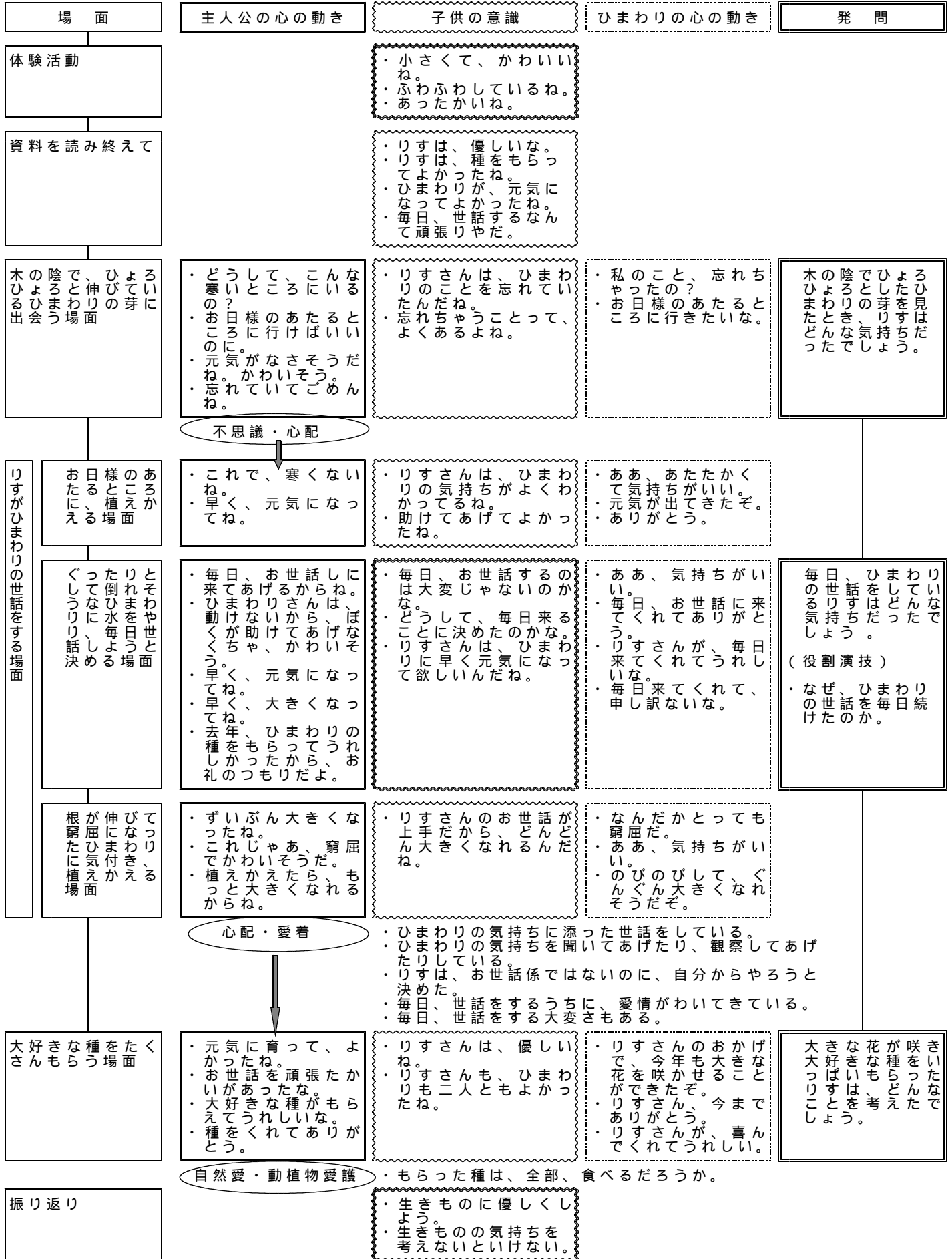
展開では、ねらいとする価値を理解させるために、ひまわりの気持ちを考えながら世話をしているりすの行為のよさやひまわりへの思いを考えさせ、生き物の気持ちを考えて接することの大切さを理解させる。

また、ねらいとする価値と自分とをかわらせ、価値実現への意欲をもたせるために、自分が世話をしている生き物の立場にたって気持ちを考えることで、自分のこれまでの生き物へのかかわり方を振り返らせるとともに、自分の中にもある生き物に優しく接しようとする気持ちに気付かせたい。

4 ねらい 身近な自然や動植物に親しみをもち、優しい心で接しようとする気持ちを育てる。

5 指導展開案（指導実践1）

段階	<学習活動と主な発問>	<予想される児童の反応>	<指導上の留意点>
導入	<p>1. ねらいとする価値や資料に対する興味・関心をもつ。 みんなの周りには、どんな生き物がいますか。</p> <p>2. 生活体験での思いを呼び起こす。 ・学級で飼っている生き物を観察し、または直接触れながら、自分の生き物に対する気持ちやかかわり方について考える。 (体験活動 タイプ)</p> <p>3. 価値を自分なりに感じる ・資料「ひまわりとりす」を聞いて感想を発表し、話合いの方向性をつかむ。</p>	<p>・ハムスター ・クワガタ</p> <p>・かわいいね。 ・おなかはすいていないかな。 ・この間、餌をあげるのを忘れちゃった。 ・水を飲んでるところがかわいいんだよ。</p> <p>・りすは、えらいな。 ・りすは、優しいな。 ・ひまわりが元気になってよかったな。</p>	<p>・自分たちの身近にいる生き物を思い起こさることで、ねらいとする価値や資料に対する興味・関心をもたせる。</p> <p>・生き物に対する素直な気持ちを表出させる。 ・生き物が苦手と触れられない児童も、観察して語りかけることで生き物との交流ができるようにする。</p> <p>・心に残ったことを話合の中で、話合いの方向性をつかませる。</p>
展開	<p>4. 価値に対する様々な考え方を受け止める。 ・りすの行動や気持ちについて考える。 (話合い) 木の陰でひょろひょろとしたひまわりの芽を見たとき、りすはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>毎日ひまわりの世話をしているりすはどんな気持ちだったでしょう。 (体験活動 タイプ) ・役割演技を行い、りすの立場に立って考える。</p> <p>「りすさん、どうしてわたしのお世話をしてくれるの？」</p> <p>「毎日お世話するのは大変でしょう。」</p> <p>大きな花が咲き、大好きな種をいっぱいもらったりりすは、どんなことを考えたでしょう。</p> <p>5. よりよい生き方を目指そうと思いを高める。 (振り返り) みんなの飼っているハムスターは今、どんな気持ちでいるでしょう。</p>	<p>・ひょろひょろで、かわいそう。 ・ぼくが、かくしていたのを忘れていたんだ。 ・こんなところにいたら、寒いだろうね。 ・お日さまにあててあげよう。</p> <p>・お日さまにあてるだけじゃ、だめだったんだね。 ・だって、ひまわりさんは、自分で動けないでしょう。 ・ぼくが、世話しないと死んじゃう。 ・ひまわりさんが喜んでくれるからうれしいよ。 ・毎年、ぼくの好きなひまわりの種をくれるのに、死んじゃったらいやだよ。 ・助けないとかわいそう。 ・ずっと忘れていてごめんね。 ・早く大きくなってね。</p> <p>・元気になってよかったね。 ・お世話を頑張ってよかったな。 ・おいしい種をくれてありがとう。 ・大切に食べるよ。 ・残った分はまた土の中にうめておくよ。</p> <p>・お掃除ありがとう。 ・餌やりを忘れないでね。</p>	<p>・倒れそうなひまわりを何とか助けたいと思う気持ちと、ひまわりの様子を見て世話をしているりすの行為のよさに目を向けられるようにする。</p> <p>・ひまわりのことを考えて、りすがどんな世話をを行ったかをおさえる。 ・ひまわりの気持ちに添う、世話をしているりすの行為のよさに気付かせる。</p> <p>・体験活動タイプ での思いを手がかりにしながら、毎日、世話をする大変さと愛情がわく気持ちに気付かせる。</p> <p>・毎日、世話を続けたことでひまわりが大きく成長した喜びと充実感をとらえさせる。</p> <p>・体験活動タイプ を手がかりに振り返り活動を行い、自分の思いの中にある大切にしたい心を確かめさせながら、よりよい生き方を目指そうという思いをもたせる。</p>
終末	6. 教師の話聞く。		・児童の日常の様子から事例を取り上げ、実践意欲につながるようにする。



【補充資料3】

第2学年 道徳学習指導案

日 時 平成17年9月13日 2校時
児 童 山形村立山形小学校 2年教室
第2学年 男子4名 女子10名 計14名
授業者 柏木路子（長期研修生）

1 主題名 かけがえのない命 （生命尊重 3 - (2)）

2 資料名 ふしぎな音 （文溪堂）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

学習指導要領道徳の第2章、第1学年及び第2学年の内容の3「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」の(2)に「生きることを喜び、生命を大切にすることをもち」とある。3の視点は、自己を自然や美しいもの、崇高なもののかかわりにおいてとらえ、人間としての自覚を深めることに関するものであり、生命あるものすべてをかけがえのないものとして尊重し大切にすることを育てようとする内容項目である。

生命の最も本質的な特色は、それがまったくただ1回限りのものであり、人間存在の根源となるかけがえのないものだという点である。生命を尊重するということは、生命の尊さに気づき、それをかけがえのないものとしてとらえ、大切にしていこうとすることであり、すべての道徳性の基盤となりうるものである。この生命については、人間だけにとどまらず、生きているすべてのものに対しての尊重の精神が求められる。

生活体験のまだ少ない低学年の児童にとっては、日常生活の中で、命あるものとの触れ合いをおとした情緒体験を積み重ねていくことが、生命尊重の心をはぐくむ基盤になる。また、じっくりと自分の命について思いをはせて考えるような機会をもって、命があるからこそ人間はいろいろなことができるのだということに喜びを感じ、生命の大切さを自覚することは大切なことであると考えられる。

(2) 児童について

この時期の児童は、命は大切なものであるということは知っている。そして、生命に対する知識として、人間が生きているのは心臓が動いているからであることや心臓が止まると死んでしまうということは知っている。しかし、自分の命の大切さについてはあらためて考える機会は少なく、あってあたりまえのものであり、そのかけがえのなさを実感している児童は少ない。

そこで、命があるからこそ人間はいろいろなことができることやその命には限りがあることに気付かせながら、命があることのすばらしさや生きていることの実感を味わえるようにし、かけがえのない命を大切にしようとする心情を育てる必要がある。

(3) 資料について

本資料は、校医の先生の命にかかわる話に驚いた主人公が、聴診器で自分の不思議な心臓の音を耳にし、たった一つしかない命への思いを深めていくという話である。

校医の先生の命にかかわる話に驚き、自分の命について知りたくなる主人公の気持ちに共感させながら、命があるからこそ人間はいろいろなことができることやその命には限りがあることに気付かせ、かけがえのない命の大切について考えさせるのに適した資料である。

(4) 指導にあたって

導入では、聴診器で自分の心臓の音を聞き合う活動を組み入れる。この活動により、命の響き、動きを感じることができ、驚きと興味をもって資料の範読を聞くことができるであろう。

展開前半では、心臓が動いているからこんなことができるという友だちの様々な意見を聞いて、「本当にそうだなあ。」とつぶやいた主人公に共感させたい。

展開後半では、心臓が動いているからできることをあげさせながら、生きていることの喜びを実感させ、命を大切にしていこうという思いを高めさせていきたい。

4 ねらい 命の存在やすばらしさに気付き、かけがえのない命を大切にしようとする心情を育てる。

5 指導展開案（指導実践2）

段階	<学習活動と主な発問>	<予想される児童の反応>	<指導上の留意点>
導入	<p>1. ねらいとする価値や資料に対する興味・関心をもつ。 命ってどんなものでしょう。</p> <p>2. 生活体験での思いを呼び起こす。 みんなの心臓の音は、どんな音が聞いてみましょう。 （体験活動 タイプ）</p> <p>3. 価値を自分なりに感じる。 ・資料「ふしぎな音」を聞いて感想を発表し、話し合いの方向性をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目に見えない。 ・大切なもの。 ・ドキッ、ドキッって音がするよ。 ・音が早いよ。 ・動いてるぞ。 ・なんだか不思議な感じがする。 ・心臓って休まずに動いていてすごいな。 ・心臓のおかげでいるいろいろなことができるんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・命についての考えを自由に発想させる。 ・心臓の音を聞くことで、命の存在を感じ取らせる。 ・心に残ったことを話合わせる中で話し合いの方向性をつかませる。
展開	<p>4. 価値に対する様々な考え方を受け止める。 ・しょうた君の気持ちについて考える。（話し合い） ふじわら先生の話聞いたとき、しょうた君はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>自分の心臓の音が聞こえたとき、しょうた君はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>しょうた君は、「本当にそうだなあ。」とつぶやきながらどんなことを考えたでしょう。</p> <p>5. よりよい生き方を目指そうと思いを高める。（振り返り） 毎日、動いている自分の心臓にどんなことをいってあげたいですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・びっくりした。 ・そんなこと知らなかった。 ・本当に死んでしまうのかな。 ・自分の心臓はどうなっているのかな。 ・自分の心臓は大丈夫かな。 ・これがぼくの心臓か。不思議だな。 ・力強く、ドキッ、ドキッって動いているぞ。 ・ちゃんと動いていて安心した。 ・これがとまったら、大変だ。 ・心臓が毎日動いてくれているからいろいろなことができるんだ。 ・命は一つしかないぞ。 ・命を大切にしよう。 ・いつもありがとう。おかげでできるよ。 ・道路でふざけたりして、命を無駄にしないように気をつけるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心臓が休まずに動いているという話への驚きと、自分の心臓が気になる主人公の気持ちをつかませる。 ・命は、とりかえられない一つだけのものだということや自分たちが気付かないときも動いていることをおさえておく。 ・体験活動タイプ での実感を基に、自分の気持ちと登場人物の気持ちを重ね合わせながら話し合わせる。 ・もし、心臓が動かなくなったら考えさせることで、命があるからこそできることについて考えさせる。 ・命は一つずつしかないこと、命があるからこそいろいろなことができるのだということについて考えることをとおして、生きている喜びを感じられるようにする。 ・体験活動タイプ を手がかりに振り返り活動を行い、自分の思いの中にある大切にしたい思いを確かめさせながら、よりよい生き方を目指そうという思いをもたせる。
終末	6. 教師の話聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・児童の日常の様子から事例を取り上げ、実践意欲につながるようにする。

6 資料分析
資料名「ふしぎな音」（文溪堂 2年）

場面	主人公の心の動き	子供の意識	発問
体験活動		<ul style="list-style-type: none"> ・ドキ、ドキっていつてる。 ・なんか、不思議な感じ。 ・動いてる、動いてる！ 	
資料を読み終えて		<ul style="list-style-type: none"> （うれしそうな表情） （真剣な表情） 	
校医のふじわら先生からおきの話を聞いた場面	<ul style="list-style-type: none"> ・びっくりした。全然知らなかったなあ。 ・少しも休まないなんてびっくりだ。 ・心臓が止まったら、大変だ。 ・ぼくの心臓は、どうなってるのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・びっくりだ。心臓ってすごいんだね。 ・自分も初めて知ったよ。しょうた君もびっくりしただろうね。 	<p>ふじわら先生の話聞いたとき、しょうた君はどんな気持ちだったでしょう。</p>
	<p>驚き、不安</p> <p>↓</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・命は、一人に一つだけだ。 ・心臓が止まったら、死んでしまう。 ・この音が聞こえなくなるといことは、命がなくなる、死ぬということだ。 	
聴診器で、自分の心臓の音を聞く場面	<ul style="list-style-type: none"> ・これが、ぼくの音か。ちゃんと動いているぞ。 ・ドキ、ドキって力強いね。 ・これが止まったら、大変だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不思議な感じがしただろうね。 ・自分の心臓が動いていたから、安心しただろうね。（導入で聴いた音をイメージしながら。） 	<p>自分の心臓の音が聞こえたとき、しょうた君はどんな気持ちだったでしょう。</p>
	<p>不思議、安心</p> <p>↓</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・命があるからできることについて考える。 ・もし、心臓が動かなくなったら？ 	
みんなの意見を聞きながら、「本当にそうだなあ。」とつぶやく場面	<ul style="list-style-type: none"> ・心臓が毎日、動いてくれるから、いろんなことができるんだ。 ・自分の命を、大切にしないといけないな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本当にそうだなあ。 ・心臓のおかげで、いろんなことができるんだ。 ・もし、心臓の音がしなくなったら、いろんなことができなくなる。 ・命のことがわかってよかったね。 	<p>しょうた君は「本当にそうだなあ。」とつぶやくながら、どんなことを考えたでしょう。</p>
	<p>生命尊重</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・命がなくなったら、好きなことだけでなく、生活の中のあたりまへの活動ができなくなることだ。 ・大切な命を粗末にしては、いけない。 ・命を大切にすることは、どういうことか。あるいは、命を粗末にするとは、どういうことか。 	
振り返り		<ul style="list-style-type: none"> ・今まで、命のことをあまり考えたことがなかったな。 ・心臓さん、いつもありがとう。 ・命を大切にすることからね。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・命を大切にしたい思いを具体的に考える。 ・生きていることのすばらしさを感じる。 	